

議案第56号

職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例案

職員の退職手当に関する条例（昭和24年大阪市条例第3号）の一部を次のように改正する。

別表第1から別表第4までを次のように改める。

別表第1（第2条関係）

普通退職の場合の支給率

| 勤続年数 (年) | 支 給 率 | 勤続年数 (年) | 支 給 率 |
|-------------|----------|-------------|---------|
| 1 | 0.5022 | 21 | 21.3435 |
| 2 | 1.0044 | 22 | 23.0175 |
| 3 | 1.5066 | 23 | 24.6915 |
| 4 | 2.0088 | 24 | 26.3655 |
| 5 | 2.511 | 25 | 28.0395 |
| 6 | 3.0132 | 26 | 29.3787 |
| 7 | 3.5154 | 27 | 30.7179 |
| 8 | 4.0176 | 28 | 32.0571 |
| 9 | 4.5198 | 29 | 33.3963 |
| 10 | 5.022 | 30 | 34.7355 |
| 11 | 7.43256 | 31 | 35.7399 |
| 12 | 8.16912 | 32 | 36.7443 |
| 13 | 8.90568 | 33 | 37.7487 |
| 14 | 9.64224 | 34 | 38.7531 |
| 15 | 10.3788 | 35 | 39.7575 |
| 16 | 12.88143 | 36 | 40.7619 |
| 17 | 14.08671 | 37 | 41.7663 |
| 18 | 15.29199 | 38 | 42.7707 |
| 19 | 16.49727 | 39 | 43.7751 |
| 20 | 19.6695 | 40以上 | 44.7795 |

別表第2（第3条関係）

公務外の傷病退職の場合の支給率

| 勤続年数 (年) | 支 給 率 | 勤続年数 (年) | 支 給 率 |
|-------------|---------|-------------|---------|
| 1 | 0.837 | 21 | 21.3435 |
| 2 | 1.674 | 22 | 23.0175 |
| 3 | 2.511 | 23 | 24.6915 |
| 4 | 3.348 | 24 | 26.3655 |
| 5 | 4.185 | 25 | 28.0395 |
| 6 | 5.022 | 26 | 29.3787 |
| 7 | 5.859 | 27 | 30.7179 |
| 8 | 6.696 | 28 | 32.0571 |
| 9 | 7.533 | 29 | 33.3963 |
| 10 | 8.37 | 30 | 34.7355 |
| 11 | 9.2907 | 31 | 35.7399 |
| 12 | 10.2114 | 32 | 36.7443 |
| 13 | 11.1321 | 33 | 37.7487 |
| 14 | 12.0528 | 34 | 38.7531 |
| 15 | 12.9735 | 35 | 39.7575 |
| 16 | 14.3127 | 36 | 40.7619 |
| 17 | 15.6519 | 37 | 41.7663 |
| 18 | 16.9911 | 38 | 42.7707 |
| 19 | 18.3303 | 39 | 43.7751 |
| 20 | 19.6695 | 40以上 | 44.7795 |

別表第3（第3条の2関係）

定年退職等の場合の支給率

| 勤続年数 (年) | 支 給 率 | 勤続年数 (年) | 支 給 率 |
|-------------|-----------|-------------|-----------|
| 1 | 0.837 | 21 | 26.260875 |
| 2 | 1.674 | 22 | 27.934875 |
| 3 | 2.511 | 23 | 29.608875 |
| 4 | 3.348 | 24 | 31.282875 |
| 5 | 4.185 | 25 | 33.27075 |
| 6 | 5.022 | 26 | 34.77735 |
| 7 | 5.859 | 27 | 36.28395 |
| 8 | 6.696 | 28 | 37.79055 |
| 9 | 7.533 | 29 | 39.29715 |
| 10 | 8.37 | 30 | 40.80375 |
| 11 | 11.613375 | 31 | 42.31035 |
| 12 | 12.76425 | 32 | 43.81695 |
| 13 | 13.915125 | 33 | 45.32355 |
| 14 | 15.066 | 34 | 46.83015 |
| 15 | 16.216875 | 35以上 | 47.709 |
| 16 | 17.890875 | | |
| 17 | 19.564875 | | |
| 18 | 21.238875 | | |
| 19 | 22.912875 | | |
| 20 | 24.586875 | | |

別表第4（第4条関係）

整理退職等の場合の支給率

| 勤続年数 (年) | 支 給 率 | 勤続年数 (年) | 支 給 率 |
|-------------|----------|-------------|----------|
| 1 | 1.2555 | 21 | 27.74655 |
| 2 | 2.511 | 22 | 29.1276 |
| 3 | 3.7665 | 23 | 30.50865 |
| 4 | 5.022 | 24 | 31.8897 |
| 5 | 6.2775 | 25 | 33.27075 |
| 6 | 7.533 | 26 | 34.77735 |
| 7 | 8.7885 | 27 | 36.28395 |
| 8 | 10.044 | 28 | 37.79055 |
| 9 | 11.2995 | 29 | 39.29715 |
| 10 | 12.555 | 30 | 40.80375 |
| 11 | 13.93605 | 31 | 42.31035 |
| 12 | 15.3171 | 32 | 43.81695 |
| 13 | 16.69815 | 33 | 45.32355 |
| 14 | 18.0792 | 34 | 46.83015 |
| 15 | 19.46025 | 35以上 | 47.709 |
| 16 | 20.8413 | | |
| 17 | 22.22235 | | |
| 18 | 23.6034 | | |
| 19 | 24.98445 | | |
| 20 | 26.3655 | | |

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、平成30年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例による改正後の職員の退職手当に関する条例の規定は、この条例の施行の日（以下「施行日」という。）以後の退職に係る退職手当について適用し、施行日前の退職に係る退職手当については、なお従前の例による。

(職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例の一部改正)

- 3 職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例（平成19年大阪市条例第39号）の一部を次のように改正する。

附則第2項中「この条例による改正後の」及び「(以下「新条例」という。)」を削り、「この条例による改正前の職員の退職手当に関する条例第5条の規定並びに職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例（平成25年大阪市条例第65号。以下「平成25年改正条例」という。）による改正後の職員の退職手当に関する条例」を「同条例」に改め、「及び平成25年改正条例附則第3項」を削り、「(以下「旧条例等退職手当額」という。)が、職員の退職手当に関する条例」を「が、同条例」に改め、「並びに平成25年改正条例附則第3項」及び「(以下「新条例等退職手当額」という。)」を削る。

附則第3項中「新条例第7条第5項の規定により職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例（平成24年大阪市条例第84号）による改正後の職員の退職手当に関する条例」を「職員の退職手当に関する条例第7条第5項の規定により同条例」に、「が新条例」を「が同条例」に改める。

附則第4項を削り、附則第5項を附則第4項とする。

- 4 職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例（平成29年大阪市条例第36号）の一部を次のように改正する。

附則第2項中「(以下「改正後の条例」という。)」を削り、「同日」を「施行日」

に改める。

附則第3項中「改正後の条例の」を「職員の退職手当に関する条例の」に、「教育委員会規則の規定」を「教育委員会規則の規定（職員の退職手当に関する条例第2条から第4条までの規定に相当する規定として市長が定める規定を除く。）及び職員の退職手当に関する条例第2条から第4条までの規定の例」に、「改正後の条例第1条の4」を「同条例第1条の4」に改める。

附則第4項中「改正後の条例第7条第5項の規定により改正後の条例」を「職員の退職手当に関する条例第7条第5項の規定により同条例」に、「が改正後の条例」を「が同条例」に、「ならば、」を「ならば、施行日の前日における」に、「の例」を「同条例第2条から第4条までの規定に相当する規定として市長が定める規定を除く。）及び同条例第2条から第4条までの規定の例」に、「が、改正後の条例」を「が、同条例」に改める。

（職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例の一部改正に伴う経過措置）

5 附則第3項の規定による改正後の職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例（平成19年大阪市条例第39号）附則第2項及び第3項の規定は、施行日以後の退職に係る退職手当について適用し、施行日前の退職に係る退職手当については、なお従前の例による。

6 附則第4項の規定による改正後の職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例（平成29年大阪市条例第36号）附則第3項及び第4項の規定は、施行日以後の退職に係る退職手当について適用し、施行日前の退職に係る退職手当については、なお従前の例による。

平成30年 2 月23日提出

大阪市長 吉 村 洋 文

説 明

職員の退職手当の基本額の算定に係る支給率を改めるため、条例の一部を改正する必要がある
ので、この案を提出する次第である。

(参 照)

{ 傍線は削除
{ 太字は改正

職員の退職手当に関する条例（抄）

別表第1 (第2条関係)

普通退職の場合の支給率

| 勤続年数 (年) | 支 給 率 | 勤続年数 (年) | 支 給 率 |
|-------------|---------|-------------|--------|
| 1 | 0.522 | 21 | 22.185 |
| 2 | 1.044 | 22 | 23.925 |
| 3 | 1.566 | 23 | 25.665 |
| 4 | 2.088 | 24 | 27.405 |
| 5 | 2.61 | 25 | 29.145 |
| 6 | 3.132 | 26 | 30.537 |
| 7 | 3.654 | 27 | 31.929 |
| 8 | 4.176 | 28 | 33.321 |
| 9 | 4.698 | 29 | 34.713 |
| 10 | 5.22 | 30 | 36.105 |
| 11 | 7.7256 | 31 | 37.149 |
| 12 | 8.4912 | 32 | 38.193 |
| 13 | 9.2568 | 33 | 39.237 |
| 14 | 10.0224 | 34 | 40.281 |
| 15 | 10.788 | 35 | 41.325 |
| 16 | 13.3893 | 36 | 42.369 |
| 17 | 14.6421 | 37 | 43.413 |
| 18 | 15.8949 | 38 | 44.457 |
| 19 | 17.1477 | 39 | 45.501 |
| 20 | 20.445 | 40以上 | 46.545 |

別表第2 (第3条関係)

公務外の傷病退職の場合の支給率

| 勤続年数 (年) | 支 給 率 | 勤続年数 (年) | 支 給 率 |
|-------------|--------|-------------|--------|
| 1 | 0.87 | 21 | 22.185 |
| 2 | 1.74 | 22 | 23.925 |
| 3 | 2.61 | 23 | 25.665 |
| 4 | 3.48 | 24 | 27.405 |
| 5 | 4.35 | 25 | 29.145 |
| 6 | 5.22 | 26 | 30.537 |
| 7 | 6.09 | 27 | 31.929 |
| 8 | 6.96 | 28 | 33.321 |
| 9 | 7.83 | 29 | 34.713 |
| 10 | 8.7 | 30 | 36.105 |
| 11 | 9.657 | 31 | 37.149 |
| 12 | 10.614 | 32 | 38.193 |
| 13 | 11.571 | 33 | 39.237 |
| 14 | 12.528 | 34 | 40.281 |
| 15 | 13.485 | 35 | 41.325 |
| 16 | 14.877 | 36 | 42.369 |
| 17 | 16.269 | 37 | 43.413 |
| 18 | 17.661 | 38 | 44.457 |
| 19 | 19.053 | 39 | 45.501 |
| 20 | 20.445 | 40以上 | 46.545 |

別表第3（第3条の2関係）

定年退職等の場合の支給率

| 勤続年数 (年) | 支 給 率 | 勤続年数 (年) | 支 給 率 |
|-------------|----------|-------------|----------|
| 1 | 0.87 | 21 | 27.29625 |
| 2 | 1.74 | 22 | 29.03625 |
| 3 | 2.61 | 23 | 30.77625 |
| 4 | 3.48 | 24 | 32.51625 |
| 5 | 4.35 | 25 | 34.5825 |
| 6 | 5.22 | 26 | 36.1485 |
| 7 | 6.09 | 27 | 37.7145 |
| 8 | 6.96 | 28 | 39.2805 |
| 9 | 7.83 | 29 | 40.8465 |
| 10 | 8.7 | 30 | 42.4125 |
| 11 | 12.07125 | 31 | 43.9785 |
| 12 | 13.2675 | 32 | 45.5445 |
| 13 | 14.46375 | 33 | 47.1105 |
| 14 | 15.66 | 34 | 48.6765 |
| 15 | 16.85625 | 35以上 | 49.59 |
| 16 | 18.59625 | | |
| 17 | 20.33625 | | |
| 18 | 22.07625 | | |
| 19 | 23.81625 | | |
| 20 | 25.55625 | | |

別表第4 (第4条関係)

整理退職等の場合の支給率

| 勤続年数 (年) | 支 給 率 | 勤続年数 (年) | 支 給 率 |
|-------------|---------|-------------|---------|
| 1 | 1.305 | 21 | 28.8405 |
| 2 | 2.61 | 22 | 30.276 |
| 3 | 3.915 | 23 | 31.7115 |
| 4 | 5.22 | 24 | 33.147 |
| 5 | 6.525 | 25 | 34.5825 |
| 6 | 7.83 | 26 | 36.1485 |
| 7 | 9.135 | 27 | 37.7145 |
| 8 | 10.44 | 28 | 39.2805 |
| 9 | 11.745 | 29 | 40.8465 |
| 10 | 13.05 | 30 | 42.4125 |
| 11 | 14.4855 | 31 | 43.9785 |
| 12 | 15.921 | 32 | 45.5445 |
| 13 | 17.3565 | 33 | 47.1105 |
| 14 | 18.792 | 34 | 48.6765 |
| 15 | 20.2275 | 35以上 | 49.59 |
| 16 | 21.663 | | |
| 17 | 23.0985 | | |
| 18 | 24.534 | | |
| 19 | 25.9695 | | |
| 20 | 27.405 | | |

別表第1—別表第4 省 略

職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例（平成19年大阪市条例第39

号）（抄）

附 則

（施行期日）

1 省 略

（経過措置）

2 職員が新制度適用職員（職員であって、その者がこの条例の施行の日（以下「施行日」という。）以後に退職することによりこの条例による改正後の職員の退職手当に関する条例（以下「新条例」という。）の規定による退職手当の支給を受けることとなる者をいう。以下同じ。）

として退職した場合において、その者が施行日の前日に現に退職した理由と同一の理由により退職したものとし、かつ、その者の同日までの勤続期間並びに同日における給料月額及び年齢を基礎として、この条例による改正前の職員の退職手当に関する条例第5条の規定並びに職員同条例

の退職手当に関する条例の一部を改正する条例（平成25年大阪市条例第65号。以下「平成25年改正条例」という。）による改正後の職員の退職手当に関する条例第2条から第4条まで及び平成25年改正条例附則第3項の規定の例により計算した退職手当の額（以下「旧条例等退職手当額」という。）が、職員退職手当に関する条例第1条の4から第5条の2まで並びに平成25
同条例

年改正条例附則第3項の規定により計算した退職手当の額（以下「新条例等退職手当額」という。）よりも多いときは、これらの規定にかかわらず、その多い額をもってその者に支給すべきこれらの規定による退職手当の額とする。

3 職員のうち、新条例 第7条第5項の規定により職員退職手当に関する
職員退職手当に関する条例 同条例

る条例の一部を改正する条例（平成24年大阪市条例第84号）による改正後の職員の退職手当に関する条例第4条の2第2項第2号に掲げる期間が新条例第7条第1項に規定する職員として
同条例

の引き続いた在職期間に含まれる者又は市規則で定めるところにより市規則で定める期間が職員としての引き続いた在職期間に含まれる者であって、施行日の前日が当該職員の職員としての引き続いた在職期間に含まれる期間に含まれるものが新制度適用職員として退職した場合における当該退職による退職手当についての前項の規定の適用については、同項中「退職したものとし」とあるのは「職員として退職したものとし」と、「勤続期間」とあるのは「勤続期間として取り扱われるべき期間」と、「給料月額」とあるのは「給料月額に相当する額として市

規則で定める額」とする。

4 職員が施行日以後平成22年3月31日までの間に新制度適用職員として退職した場合において、その者についての新条例等退職手当額が旧条例等退職手当額よりも多いときは、新条例第1条の4から第5条の2まで並びに平成18年改正条例附則第2項及び第3項の規定にかかわらず、新条例等退職手当額から次の各号に掲げる額のうちいずれか少ない額（その少ない額が100,000円を超えるときは100,000円）を控除した額をもってその者に支給すべき退職手当の額とする。

(1) 新条例第5条の2の規定により計算した退職手当の調整額の100分の5に相当する額

(2) 新条例等退職手当額から旧条例等退職手当額を控除した額

5 省 略
4

職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例（平成29年大阪市条例第36

号）（抄）

附 則

（施行期日）

1 省 略

（経過措置）

2 この条例による改正後の職員の退職手当に関する条例（以下「改正後の条例」という。）の規定は、この条例の施行の日（以下「施行日」という。）以後の退職に係る退職手当について適用し、同日 前の退職に係る退職手当については、なお従前の例による。

施行日

3 施行日の前日において職員の給与に関する条例の一部を改正する条例（平成29年大阪市条例第31号）による改正前の職員の給与に関する条例（昭和31年大阪市条例第29号）第4条第1項第2号に掲げる高等学校等教育職給料表、小学校・中学校教育職給料表及び幼稚園教育職給料表の適用を受けていた職員が新制度適用職員（職員であって、その者が施行日以後に退職することにより改正後の条例 の規定による退職手当の支給を受けることとなる者を 職員の退職手当に関する条例

いう。以下同じ。）として退職した場合において、その者が施行日の前日に現に退職した理由と同一の理由により退職したとしたならば、この条例による改正前の職員の退職手当に関する条例第20条の規定により定められた教育委員会規則の規定（職員の退職手当に関する条例第2条から第4条までの規定に相当する規定として市長が定める規定を除く。）及び職員の退職手当に関する条例第2条から第4条までの規定の例により算定されることとなる退職手当の額（以下この項において「特定額」という。）が、改正後の条例第1条の4から第5条の2まで同条例

の規定により計算した退職手当の額よりも多いときは、これらの規定にかかわらず、特定額をもってその者に支給すべきこれらの規定による退職手当の額とする。

4 教育委員会所管の学校（幼稚園を含む。）の職員のうち、施行日の前日において地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律（平成26年法律第51号）第5条による改正前の市町村立学校職員給与負担法（昭和23年法律第135号）第1条に規定する職員であった者のうち、改正後の条例 第7条第5項の規定によ 職員の退職手当に関する条例

り改正後の条例第4条の2第2項第2号に掲げる期間が改正後の条例第7条第1項に規定する同条例 同条例

職員としての引き続いた在職期間とみなされる者であって、施行日の前日が当該職員の職員としての引き続いた在職期間とみなされる期間に含まれるものが新制度適用職員として退職した場合において、その者が施行日の前日に現に退職した理由と同一の理由により職員として退職したとしたならば、**施行日の前日における大阪府教育委員会の管理に属する学校の職員に対する退職手当の規定（同条例第2条から第4条までの規定に相当する規定として市長が定める規定を除く。）及び同条例第2条から第4条までの規定の例により算定されることとなる退職手当の額（以下この項において「特定額」という。）が、改正後の条例第1条の4から第5条の同条例**

2までの規定により計算した退職手当の額よりも多いときは、これらの規定にかかわらず、特定額をもってその者に支給すべきこれらの規定による退職手当の額とする。